

令和4年 県内労働災害発生状況分析結果

1. 死亡災害発生状況について

- (1) 死亡災害発生状況の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 事故の型別 死亡災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (3) 起因物別 死亡災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (4) 年齢別 死亡災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

2. 死傷災害（死亡・休業4日以上）発生状況について

- (1) 死傷災害発生状況の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (2) 事故の型別 死傷災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (3) 傷病性質別 死傷災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (4) 傷病部位別 死傷災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- (5) 起因物別 死傷災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- (6) 経験期間別 死傷災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- (7) 年齢層別 死傷災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- (8) 発生時刻別 死傷災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- (9) 発生月別 死傷災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- (10) 休業見込期間別 労働災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (11) 事業場規模別 死傷災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (12) 事故発生回数別 死傷災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- (13) 男女別 死傷災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- (14) 新型コロナウイルス感染症り患による死傷災害発生状況・・・・・・・・ 10

3. 業種別の労働災害の特徴について

- (1) 建設業の労働災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- (2) 林業の労働災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- (3) 製造業の労働災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- (4) 運輸交通業の労働災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- (5) 第三次産業の労働災害発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

4. 最近の労働災害の特徴について

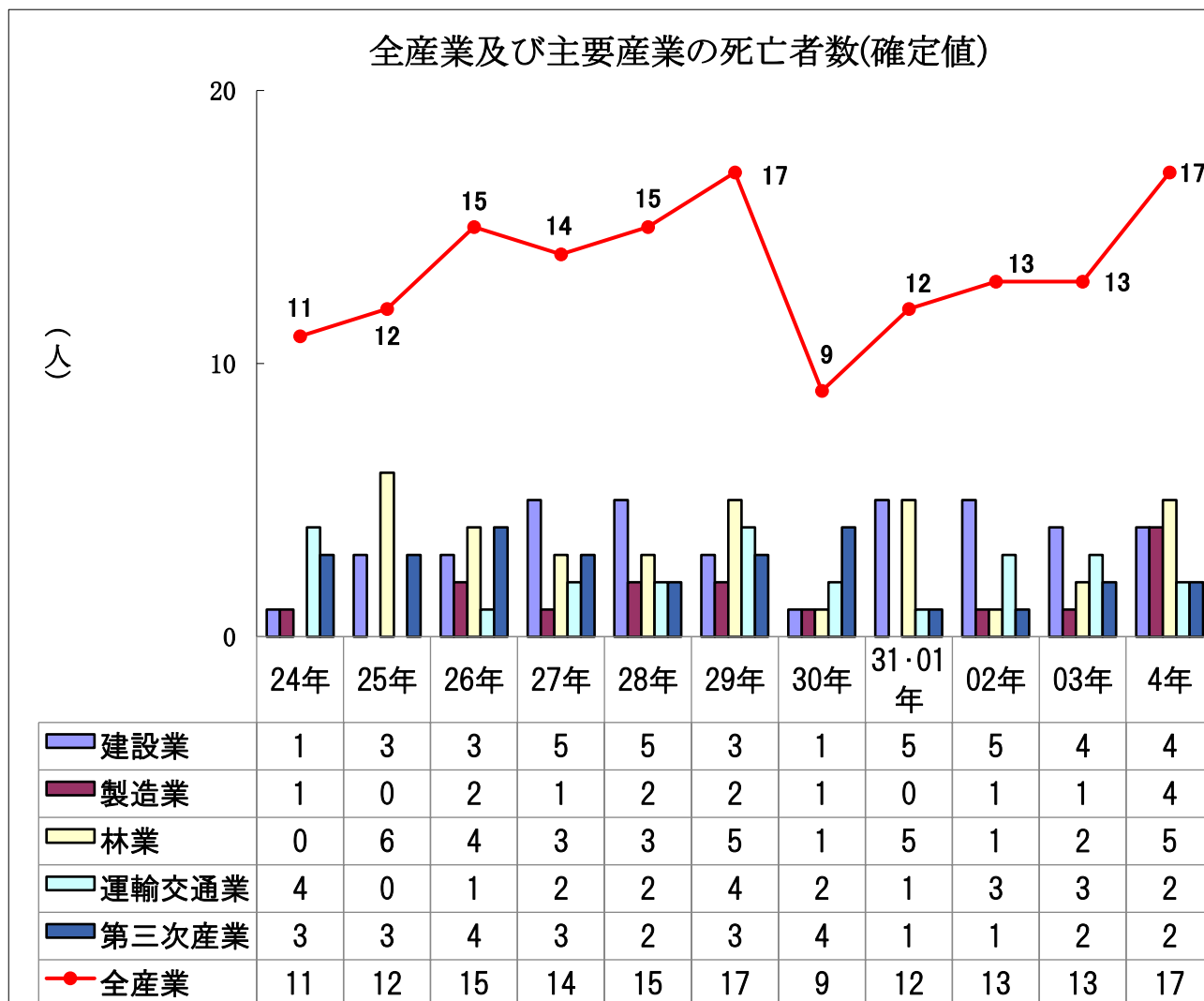
- (1) 行動災害の増加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- (2) 高年齢労働者の労働災害の増加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

令和4年県内労働災害発生状況分析結果

1. 死亡災害発生状況について

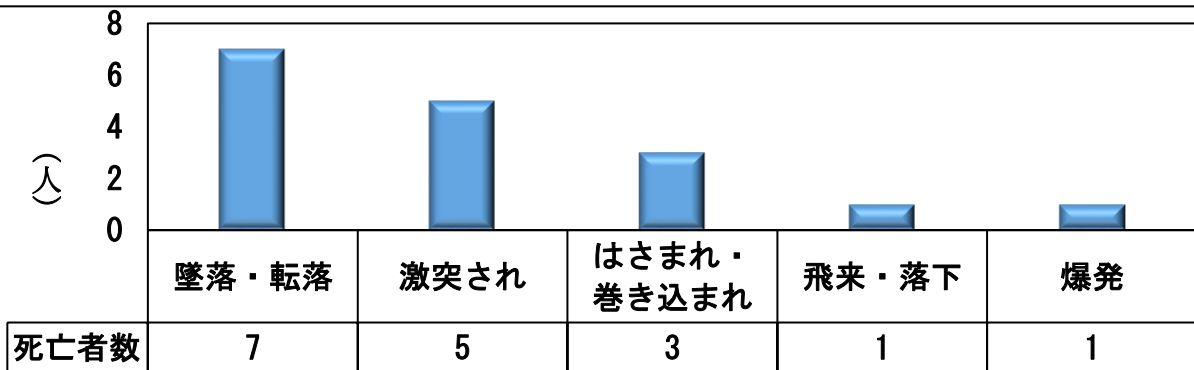
(1) 死亡災害発生状況の推移

- 令和4年の労働災害による死亡者数は17人で、前年より4人増加。
- 業種別に見ると、林業で5人(全体の29%)と最多。次いで製造業、建設業で4人(24%)の順。
- 前年との比較では、林業で5人、製造業で4人と、それぞれ3人増加し、建設業では4人と同数。



(2) 事故の型別 死亡災害発生状況 (令和4年)

令和4年に発生した死亡災害のうち、「墜落・転落」によるものが7人と最多（全体の41%）。「激突され」5人（全体の29%）、「はさまれ、巻き込まれ」3人（18%）と続く。



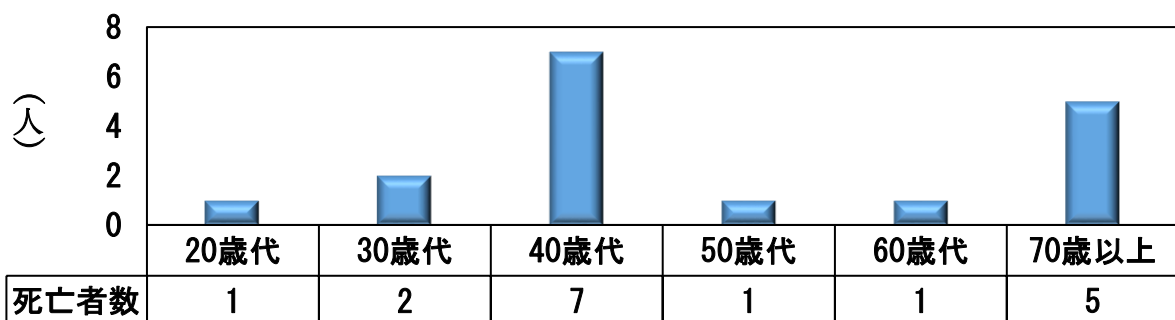
(3) 起因物別 死亡災害発生状況 (令和4年)

起因物(災害をもたらす原因となった機械、設備、環境等)別で比較したところ、伐木作業時の立木による「環境等」、屋根、はり等の「仮設物、構築物等」がそれぞれ4人（全体の24%）と最多。トラック、フォークリフト等の「動力運搬機等」が3人（全体の18%）、「建設機械等」2人（全体の12%）と機械等の災害と続く。



(4) 年齢別 死亡災害発生状況 (令和4年)

年齢別では「60歳以上」が6人で、全体の35%を占める状況。

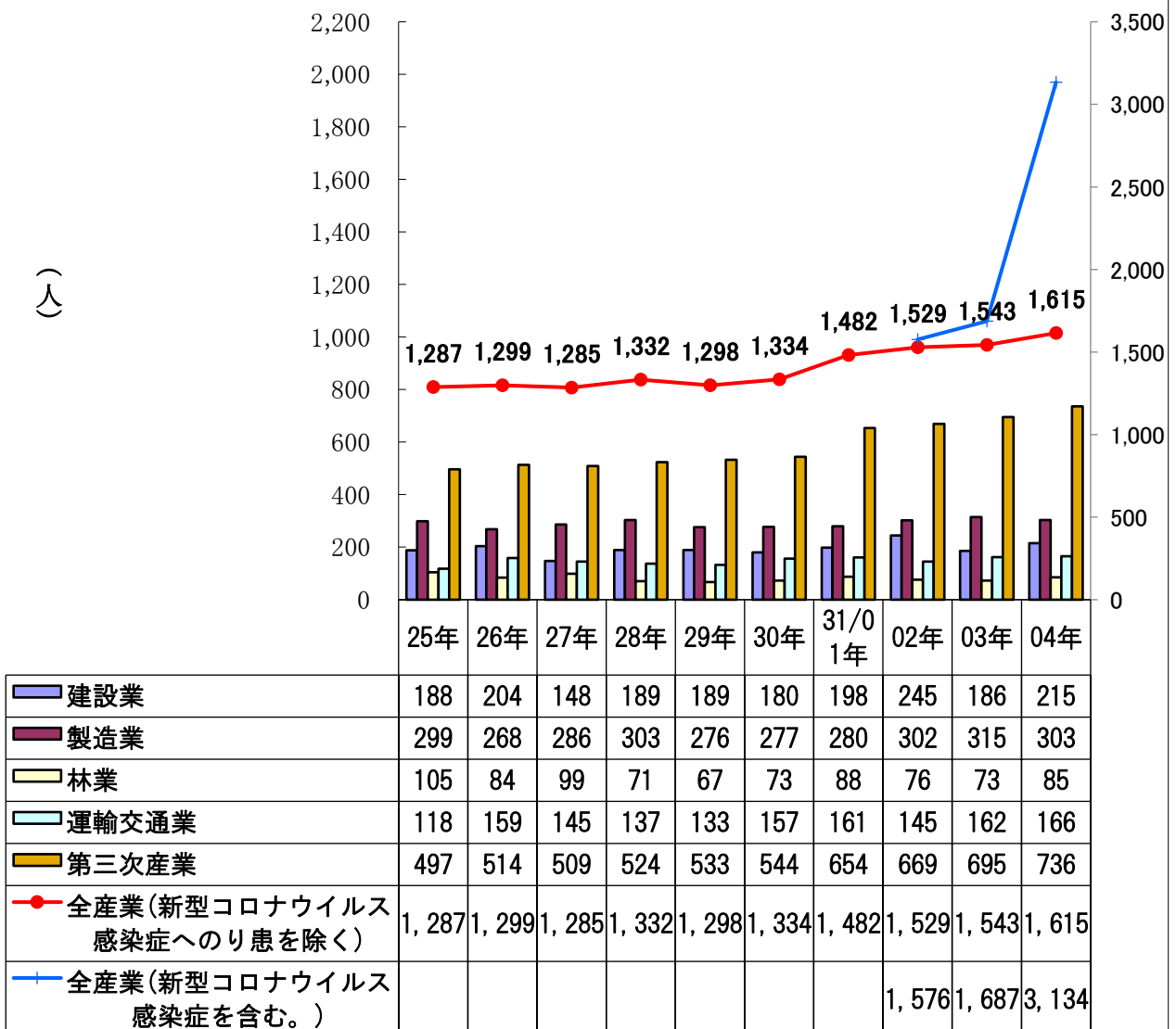


2. 死傷災害（死亡・休業4日以上）発生状況について

(1) 死傷災害発生状況の推移

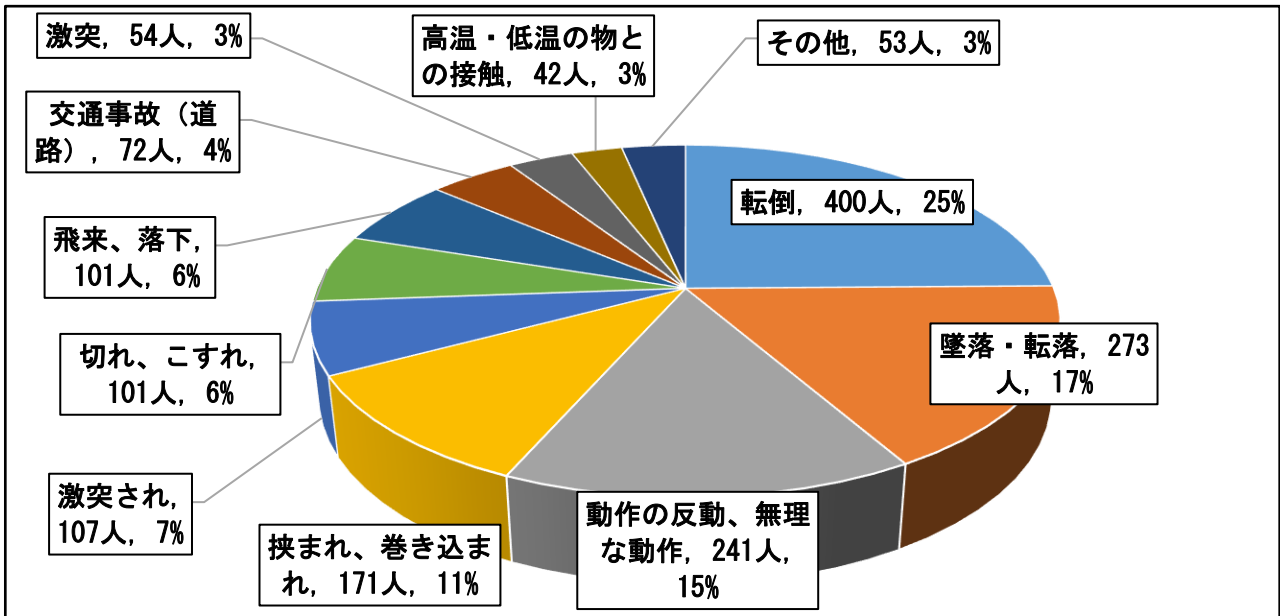
- 死傷者数は1,615人で、5年連続の増加となり、死傷者数が1,600人を超えるのは平成11年以来23年ぶり。
- 新型コロナウイルス感染症へのり患を含めると令和4年の労働災害による死傷者数は3,134人（前年比1,447人増）で、そのうち、1,519人と全体の48%を占める。
- 業種別では第三次産業が736人（全体の46%）で最多。次いで製造業303人（19%）、建設業215人（13%）、運輸交通業166人（10%）、林業85人（5%）の順。
- 建設業、林業、運輸交通業、第三次産業において前年より増加。死傷者数の増加は、第三次産業（前年比41人増）で、建設業（前年比29人増）、林業（12人増）と続く。

主要産業別死傷者数(休業4日以上・確定値)



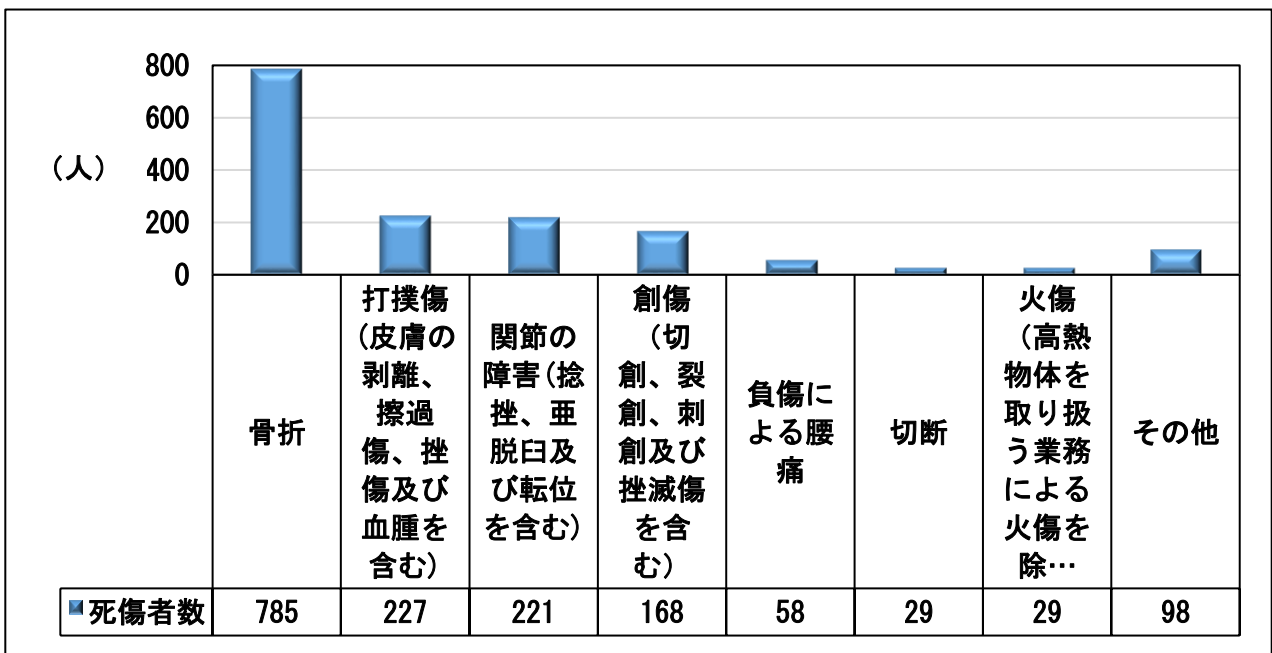
(2) 事故の型別 死傷災害発生状況 (令和4年)

新型コロナウイルス感染症り患を除いた死傷者(死亡・休業4日以上)1,615人の事故の型別は、「転倒」が400人(25%)で最多。次いで「墜落、転落」273人(17%)、「動作の反動、無理な動作」241人(15%)、「はさまれ、巻き込まれ」171人(11%)、「激突され」107人(7%)、「切れ、こすれ」101人(6%)の順。



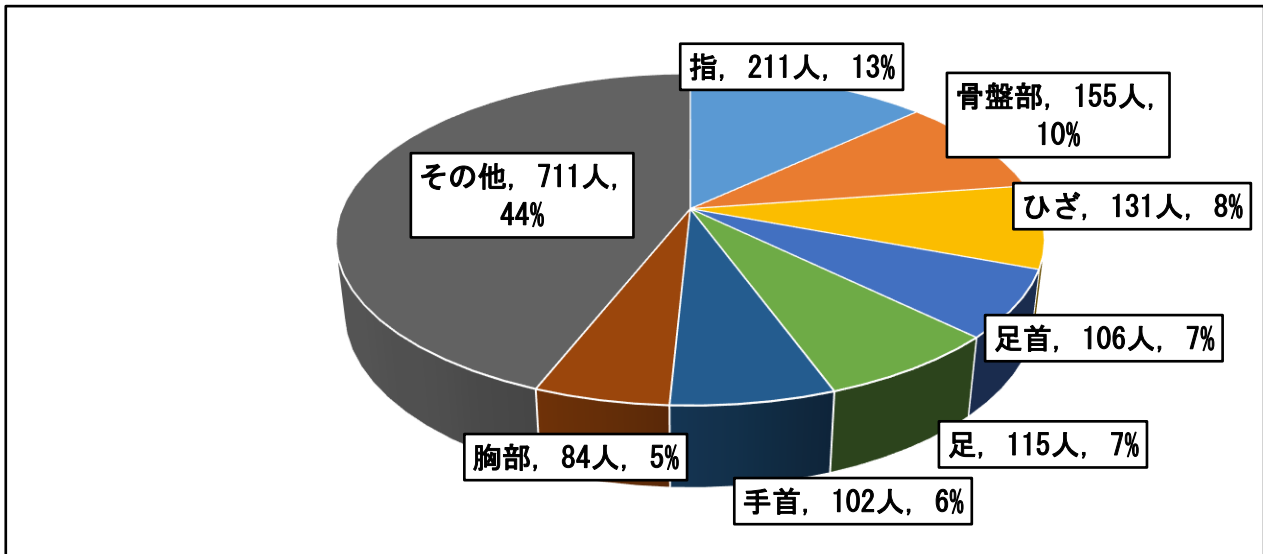
(3) 傷病性質別 死傷災害発生状況 (令和4年)

死傷者1,615人のうち、傷病(傷病名)別では「骨折」785人が最多で、全体の約半数(49%)を占める状況。



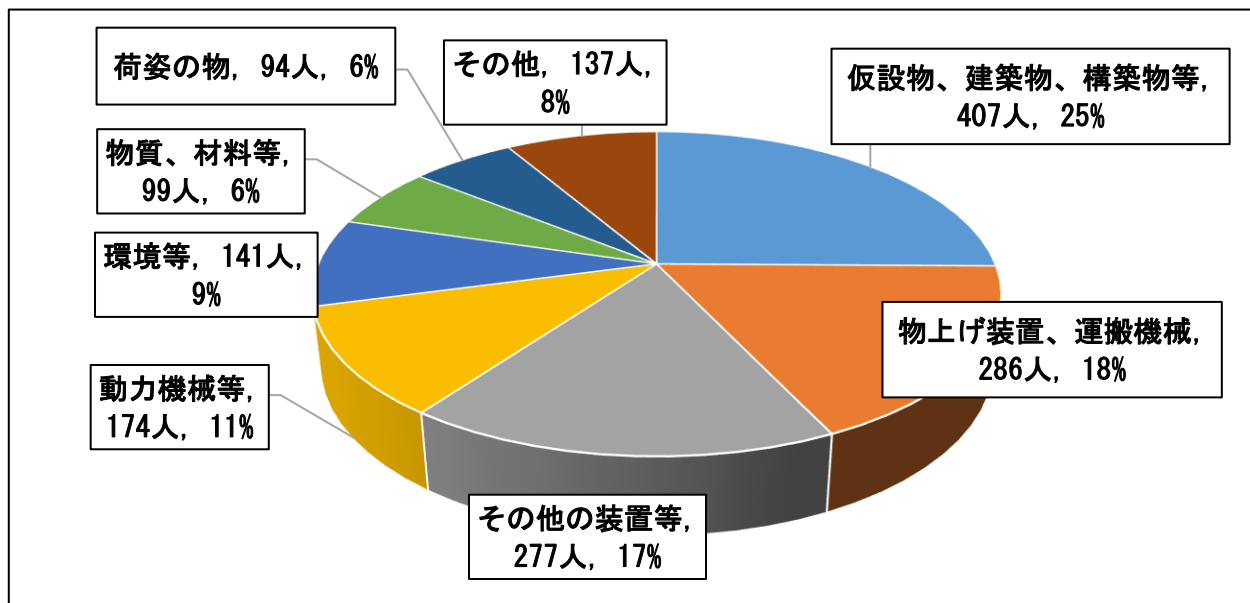
(4) 傷病部位別 死傷災害発生状況 (令和4年)

傷病部位(箇所)では「指」の211人(13%)が最多。四肢(「指」「足首」「足」「ひざ」「手首」)に関連する傷病だけで全体の41%を占める状況。



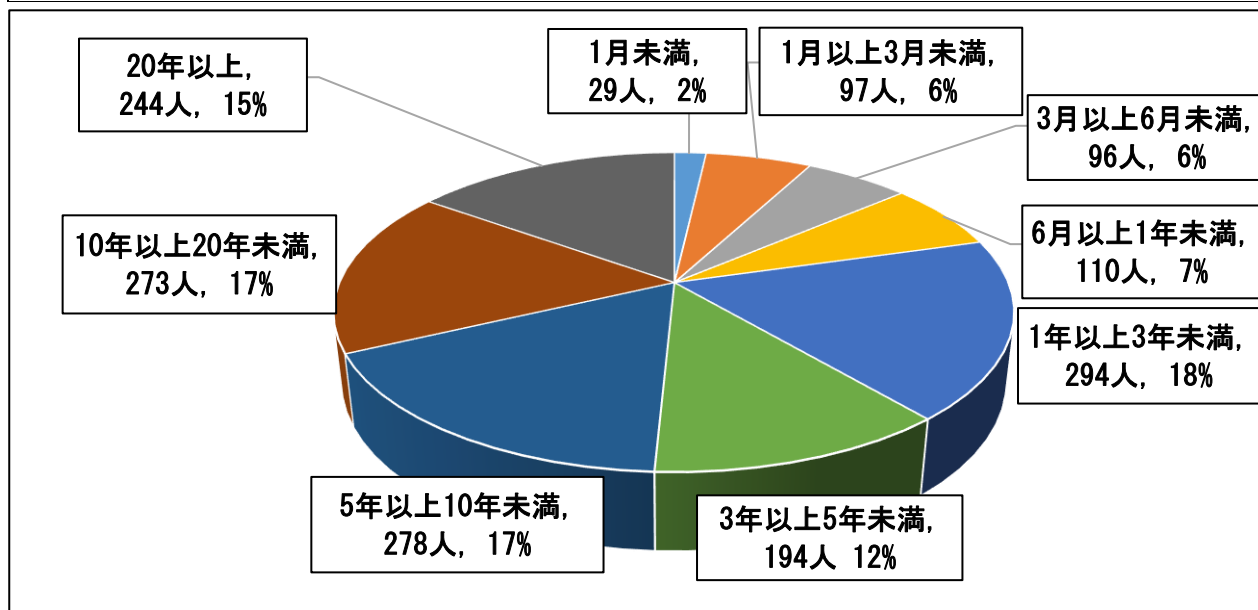
(5) 起因物別 死傷災害発生状況 (令和4年)

起因物(災害をもたらす原因となった機械・設備・環境等)では、通路や作業床、歩み板等の「仮設物、建築物、構築物」407人(25%)で最多。次いでトラック等の「物上げ装置、運搬機械」が286人(18%)、用具等の「その他の装置」が277人(17%)、建設機械等の「動力機械等」174人(11%)、「環境等」141人(9%)、「物質、材料」99人(6%)、「荷姿の物」94人(6%)と続く。



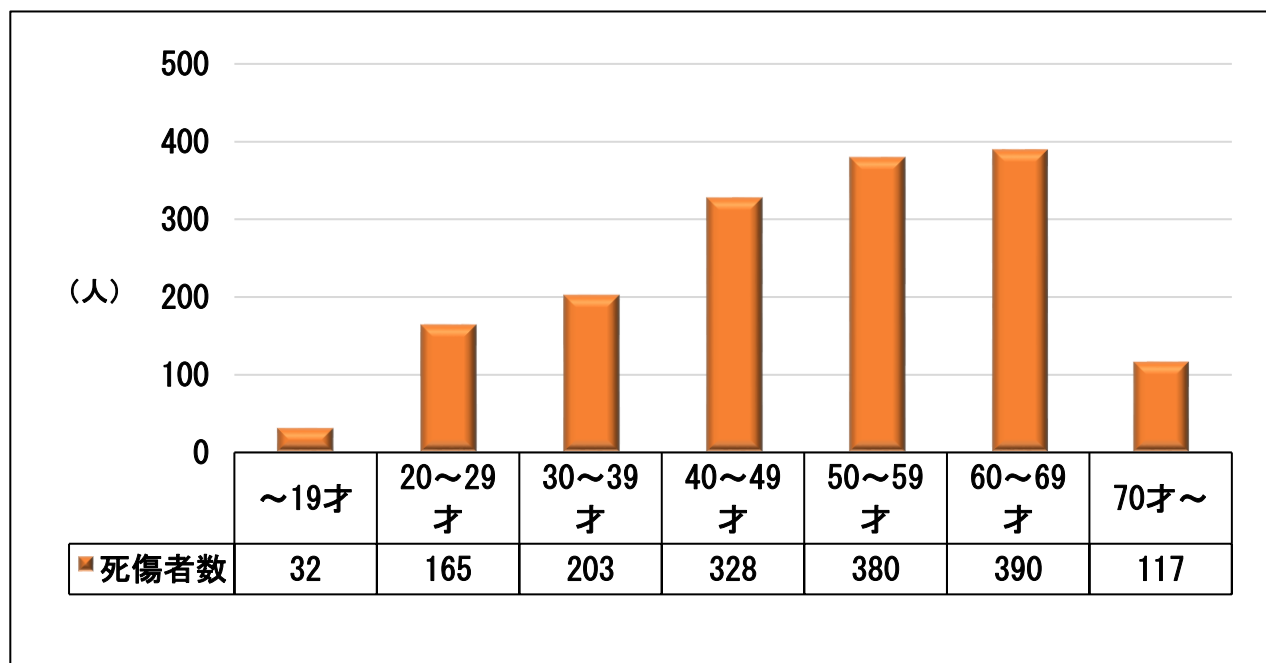
(6) 経験期間別 死傷災害発生状況 (令和4年)

- 経験期間5年以上の労働者による災害が全体のほぼ半数(49%)。
- 経験期間1年未満の労働者による災害は全体の21%。



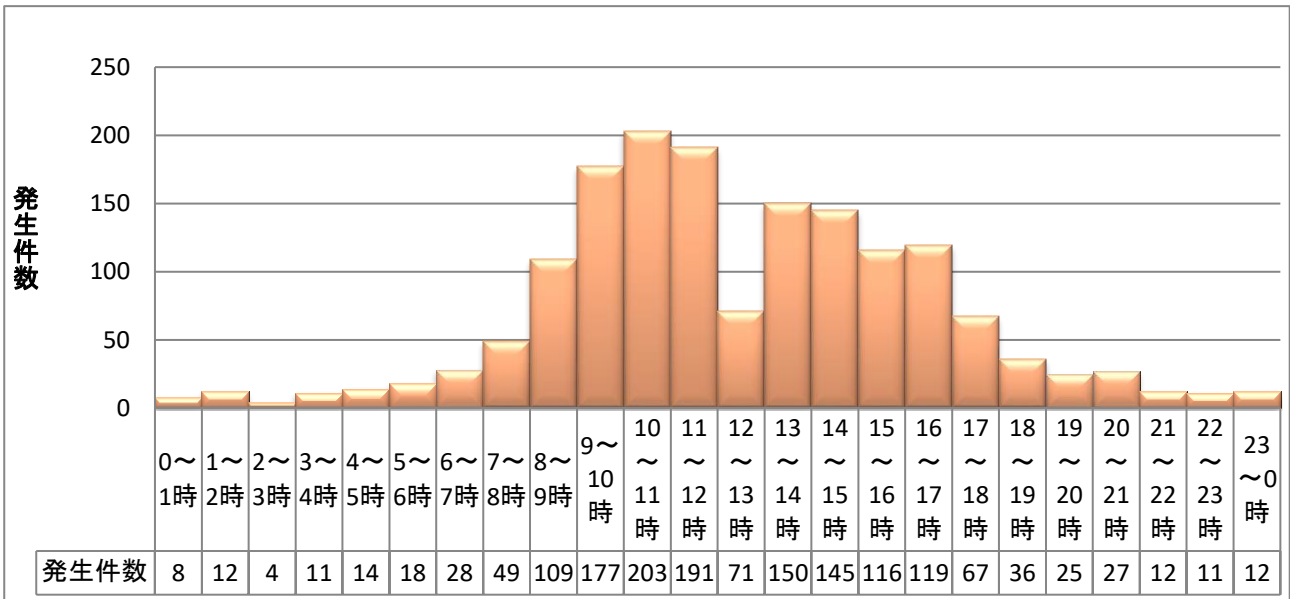
(7) 年齢層別 死傷災害発生状況 (令和4年)

- 年齢層別では「60才以上」が507人(全体の31.4%)で最多。



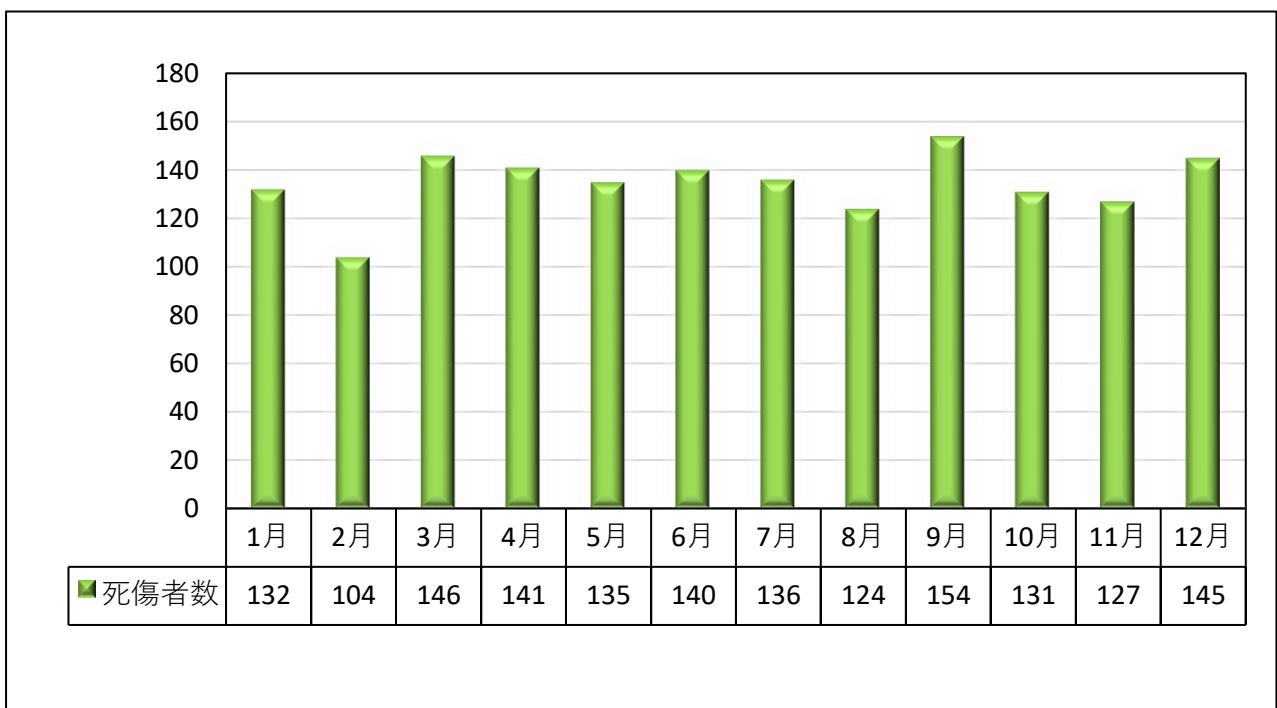
(8) 発生時刻別 死傷災害発生状況 (令和4年)

- 災害発生件数が最も多い時間帯は「10～11時」(203人、全体の13%)。
- 午前中の9～12時までの3時間に比較的多く発生(571人、全体の35%)し、また午後では「13～14時」の時間帯が150人(9%)で最多。



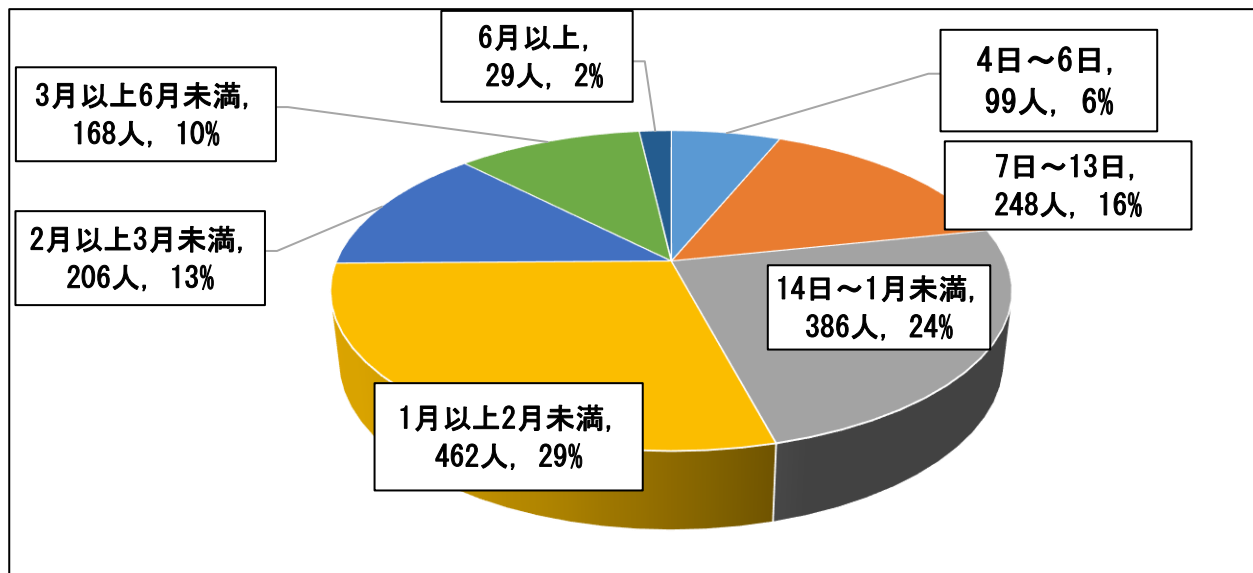
(9) 発生月別 死傷災害発生状況 (令和4年)

最も災害が多かった月は9月(154人、全体の10%)。次いで、災害が多かったのは3月、12月の順。逆に最も災害が少なかったのは2月。



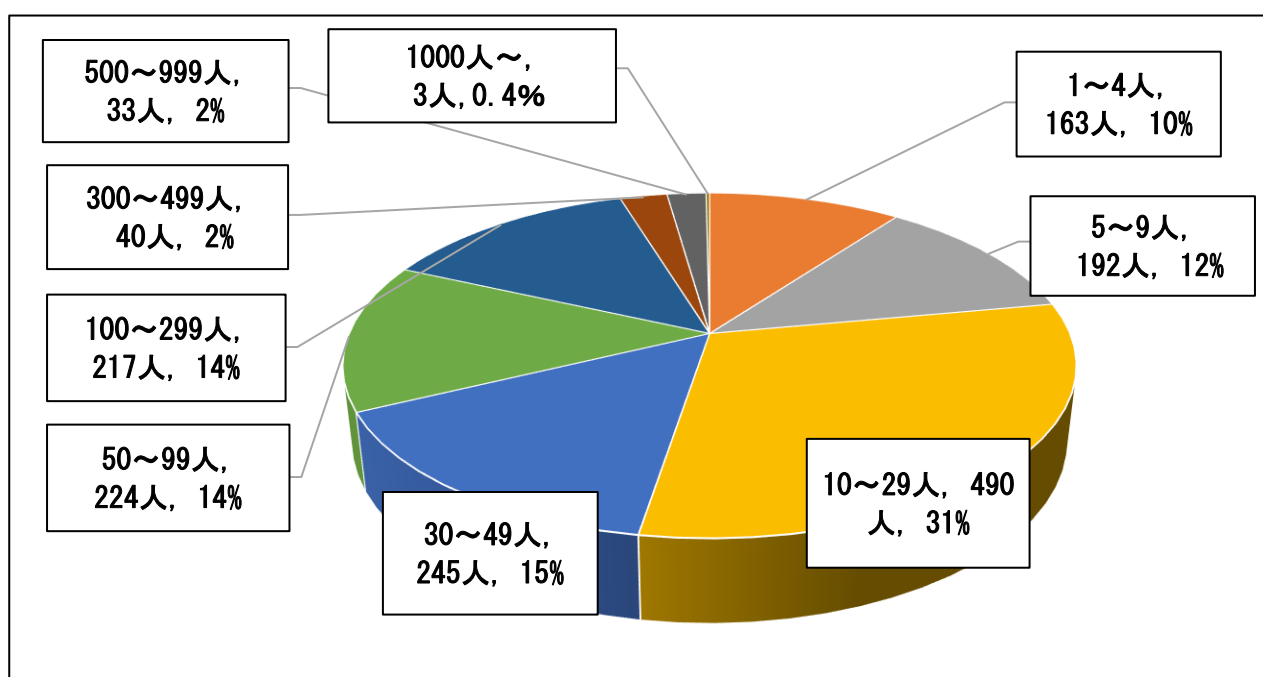
(10) 休業見込期間別 労働災害発生状況（令和4年）

休業災害（死亡を除く休業4日以上）1,615人について、休業見込期間別に比較したところ、「1月以上2月未満」が462人で最多。また休業見込期間が1月以上の災害件数は865人で、全体の54%を占める状況。



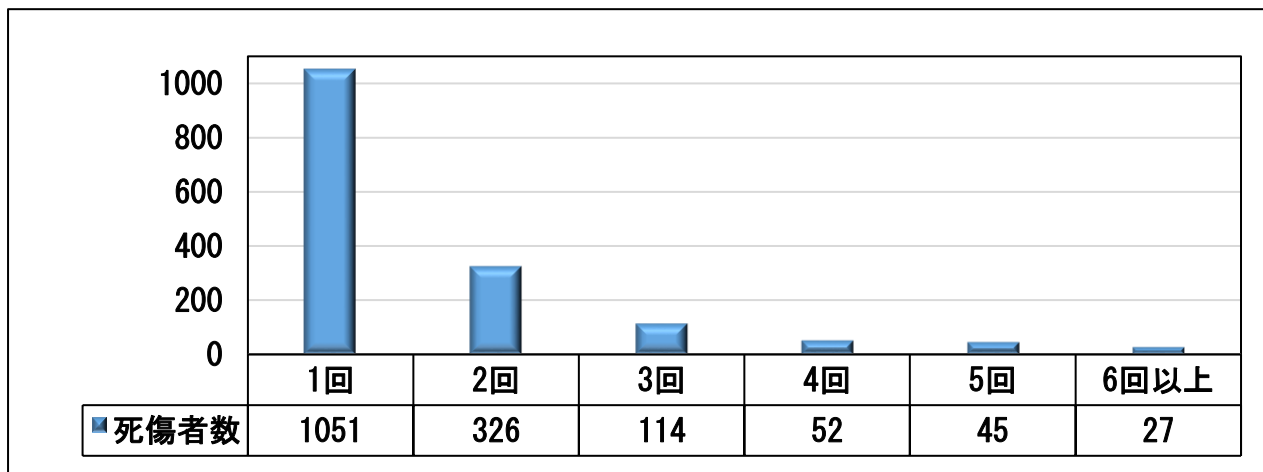
(11) 事業場規模別 死傷災害発生状況（令和4年）

死傷災害（死亡・休業4日以上）のうち事業場規模が明らかな1,607人について、発生事業場の規模別に分類したところ、比較的中規模の「10人以上50人未満」が735人で全体の46%を占める状況。また比較的大規模の「50人以上」で517人（32%）、小規模の「10人未満」では355人（22%）の結果。



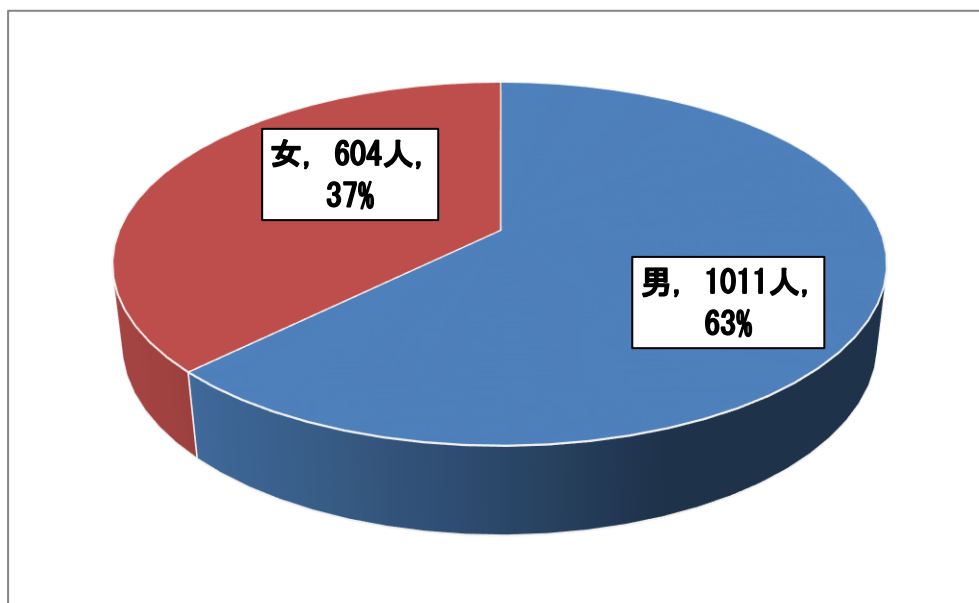
(12) 事故発生回数別 死傷災害発生状況 (令和4年)

令和4年に県内で1回(件)以上死傷災害を発生した1,615事業場のうち、1回発生
の事業場は全体の65%で、2回以上発生した事業場は227事業場であった。死傷災
害が最も多発した事業場では年に7回発生。



(13) 男女別 死傷災害発生状況 (令和4年)

男性の死傷者数が全体の63%を占める状況。



(14) 新型コロナウイルス感染症り患による死傷災害発生状況（令和4年）

➤ 令和4年に県内で仕事に新型コロナウイルスに感染し、4日以上休業した死傷者数は1,519人。業種別では第三次産業が1,456人（うち、医療保健業が804人で最多、社会福祉施設が572人、建設業28人、製造業17人の順。

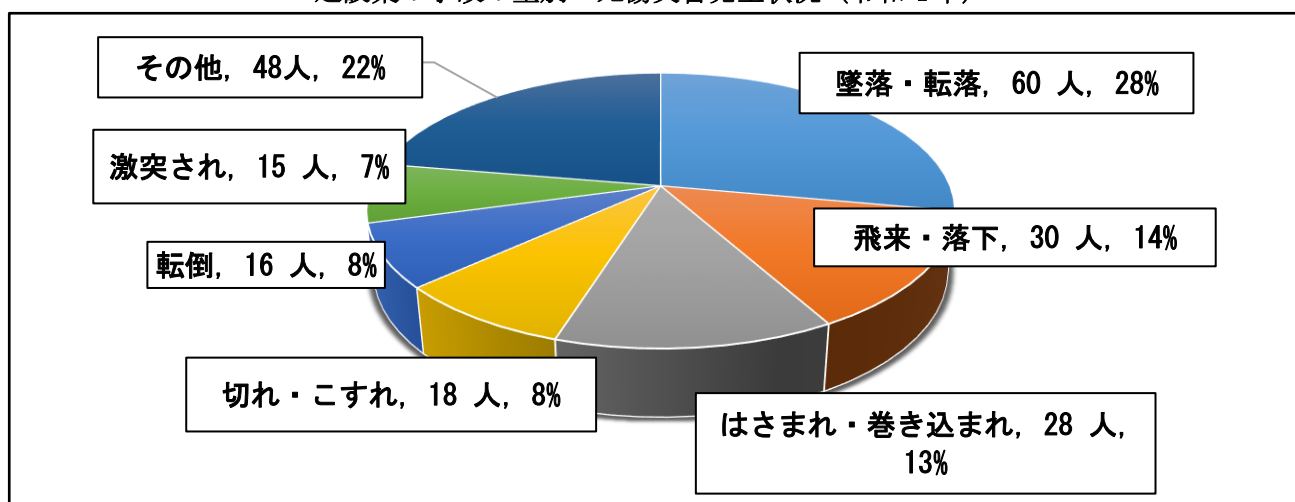
業種	死傷者数(人)		
	令和2年	令和3年	令和4年
製造業	—	34	17
建設業	12	4	28
運輸交通業	—	—	9
林業	1	—	7
第三次産業	34	90	1,456
小売業	1	6	14
医療保健業	2	17	804
社会福祉施設	24	52	572
飲食店	1	14	3
その他	6	1	63
その他	—	16	2
合計	47	144	1,519

3. 業種別の労働災害の特徴について

(1) 建設業の労働災害発生状況

- 死亡者数は、4人と前年比と同数、13次防の目標の起算点である平成29年比で1人増加。
- 死傷者数は、前年比で29人（16％）増加、平成29年比で26人（14％）増加。
- 事故の型別では、「墜落・転落」が最多で、全数に占める割合は、死亡者数で75％、死傷者数で28％。

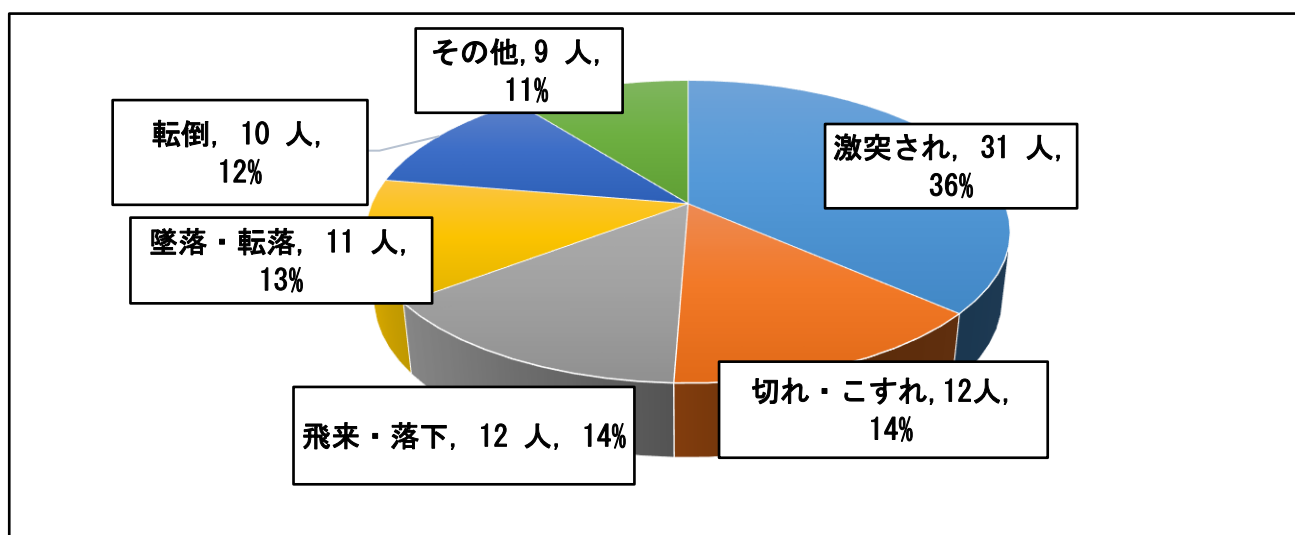
建設業の事故の型別 死傷災害発生状況（令和4年）



(2) 林業の労働災害発生状況

- 死亡者数は、5人と前年比で3人（150％）増加、13次防の目標の起算点である平成29年と同数。
- 死傷者数は、前年比で12人（16％）増加、平成29年比で18人（27％）増加。
- 事故の型別では、「激突され」が最多で、全数に占める割合は死亡者数で60％、死傷数で36％。

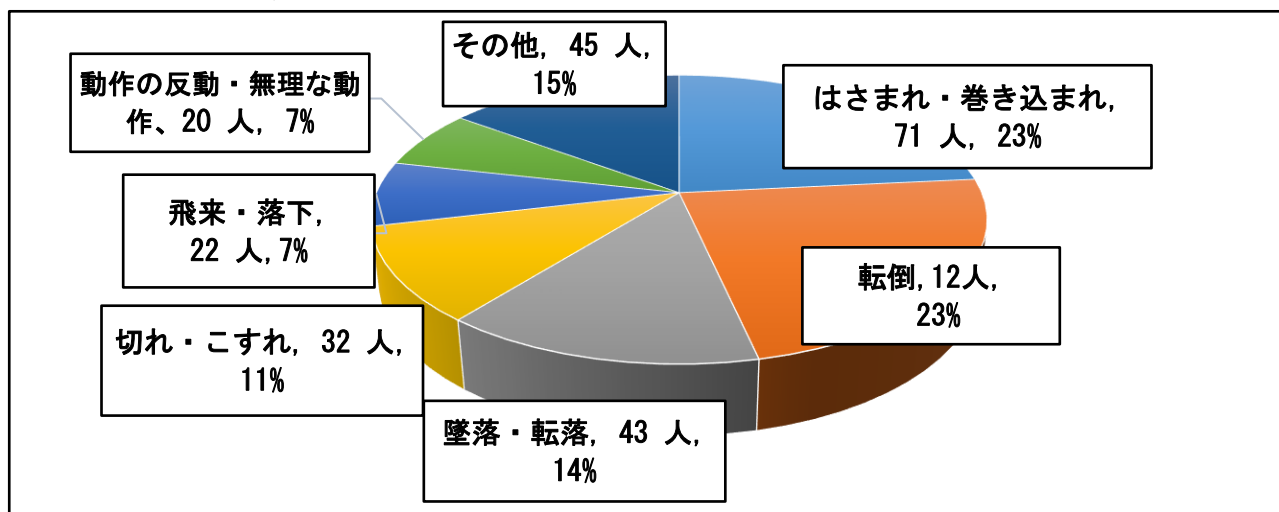
林業の事故の型別 死傷災害発生状況（令和4年）



(3) 製造業の労働災害発生状況

- 死亡者数は、4人と前年比で3人（300%）増加、13次防の目標の起算点である平成29年比2人増。
- 死傷者数は、前年比で12人（4%）減少、平成29年比で27人（10%）増加。
- 事故の型別では、機械等による「はさまれ・巻き込まれ」、「転倒」がそれぞれ23%。「はさまれ・巻き込まれ」による死亡者数の全数に占める割合は、67%。

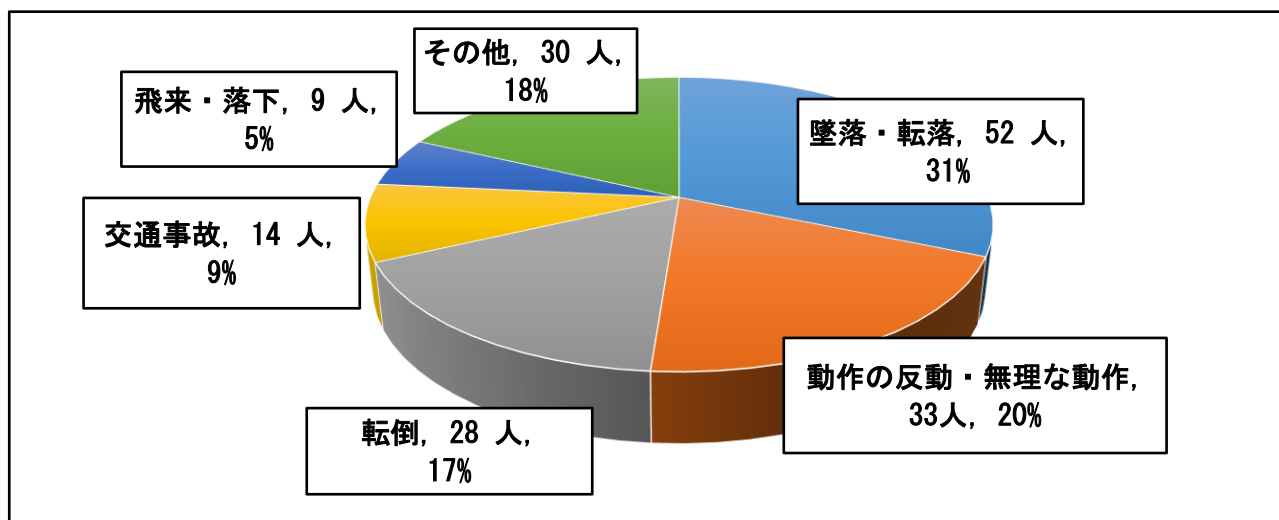
製造業の事故の型別 死傷災害発生状況（令和4年）



(4) 運輸交通業の労働災害発生状況

- 死亡者数は、2人と前年比で1人（33%）減少、13次防の目標の起算点である平成29年比2人減少。
- 死傷者数は、前年比で4人（2%）減少、平成29年比で33人（25%）増加。
- 事故の型別では、「墜落・転落」が最多で、全数に占める割合は死亡者数で50%、死傷数で31%。

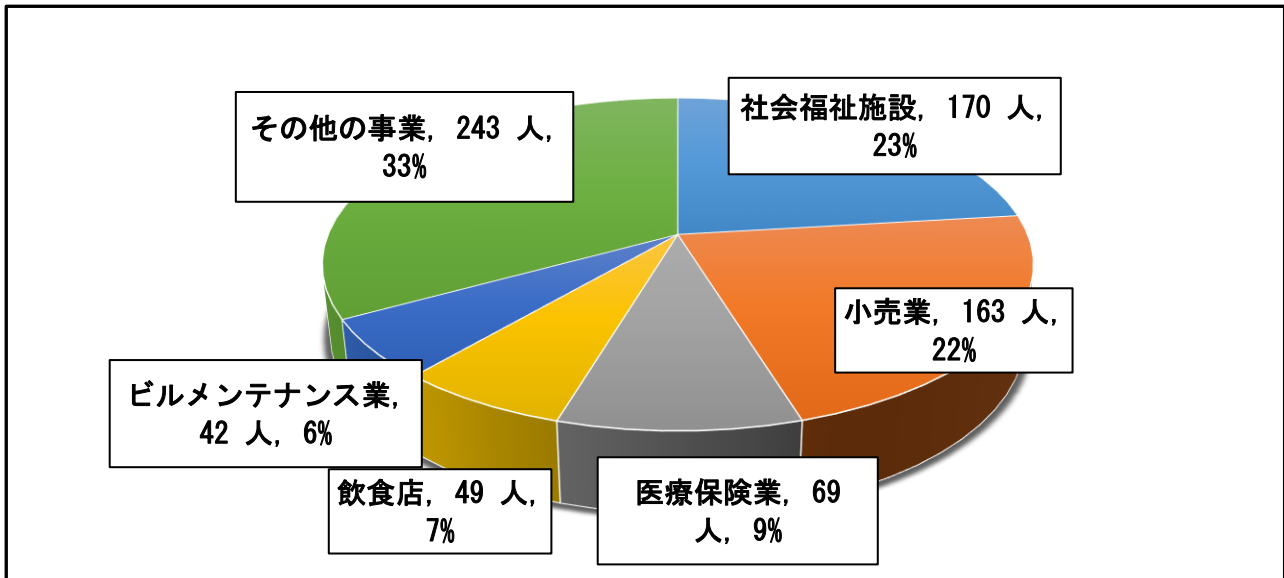
運輸交通業の事故の型別 死傷災害発生状況



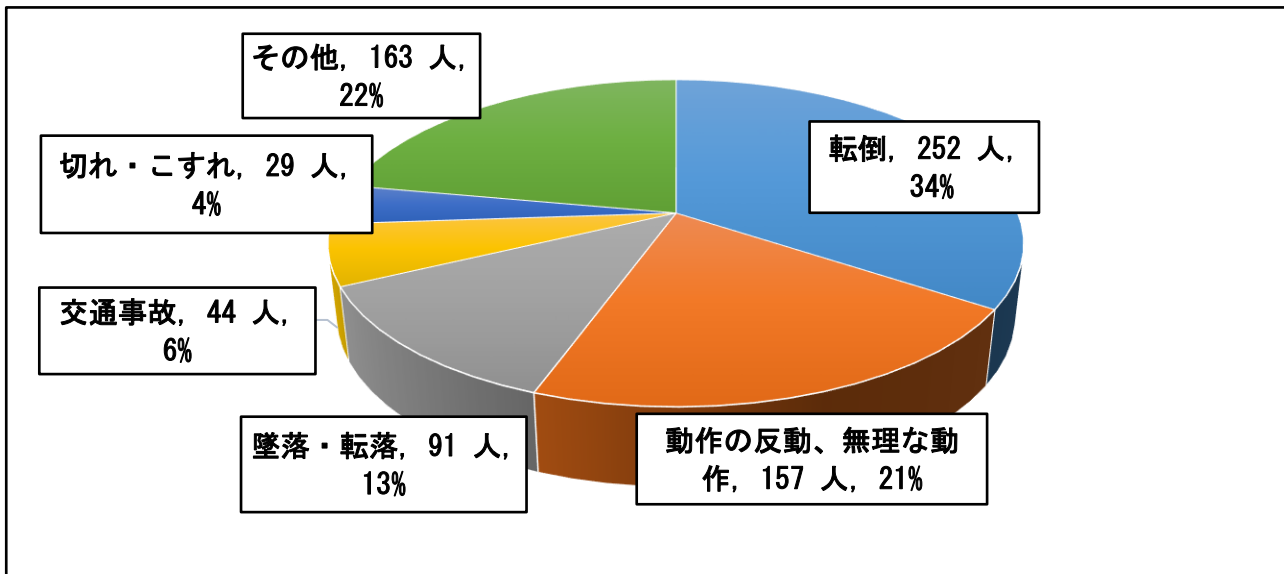
(5) 第三次産業の労働災害発生状況

- 死亡者数は、2人と前年比で同数、13次防の目標の起算点である平成29年比1人減少。小売業については、平成29年比31人（23%）増加、社会福祉施設については、平成29年比66人（63%）増加。
- 死傷者数は、前年比で41人（6%）増加、平成29年比で203人（38%）増加。
- 事故の型別では、「転倒」及び「動作の反動・無理な動作」等の労働者の作業行動に起因する労働災害が5割を超える。

第三次産業 業種（中分類）別・死傷災害発生状況（令和4年）



第三次産業の事故の型別 死傷災害発生状況

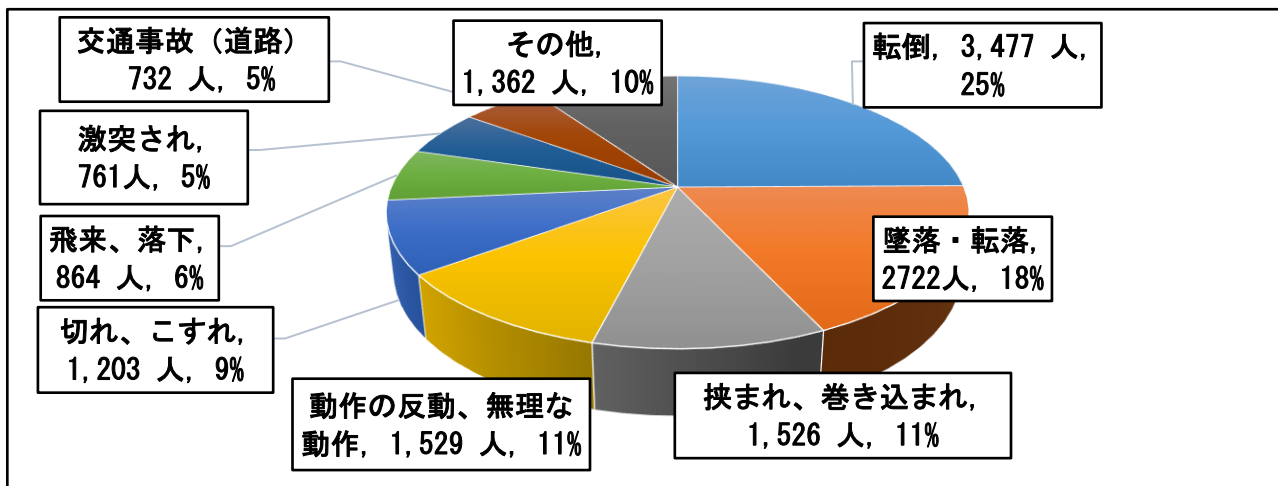


4. 最近の労働災害の特徴について

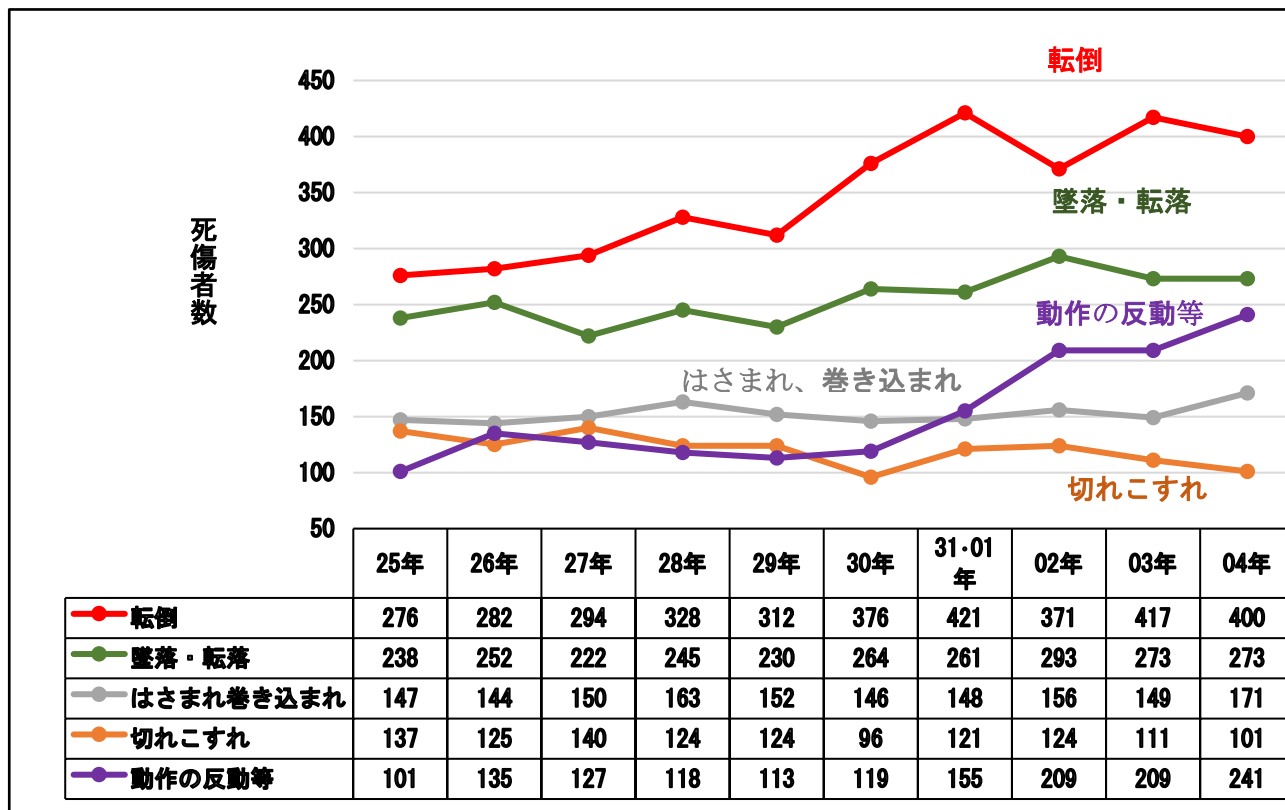
(1) 行動災害の増加

過去10年間に県内（全業種）で発生した死傷災害を事故の型別で分類したところ、「転倒」が最も多く全体の25%を占める状況（Fig. 1）。また（Fig. 2）のとおり、「転倒」は令和2年に減少したものの、増加に転じ高止まりにある。「動作の反動、無理な動作」が平成30年以降増加。

(Fig. 1) 全業種事故の型別・死傷災害発生状況（平成25年～令和4年）



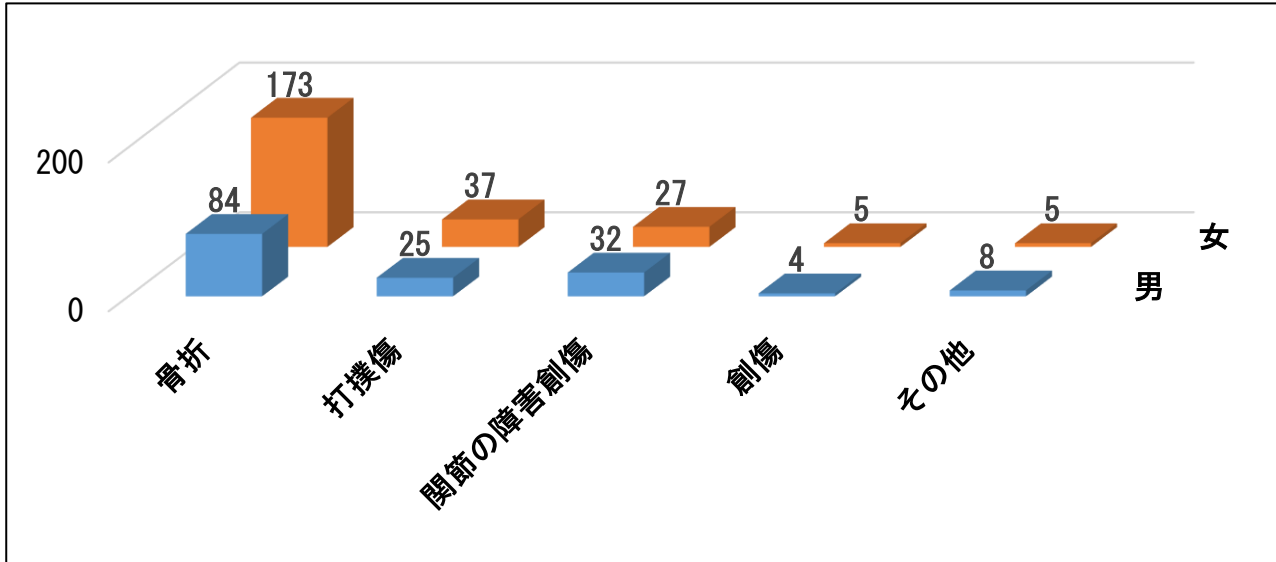
(Fig. 2) 全産業事故の型別・死傷災害発生状況の推移（平成25年～令和4年）



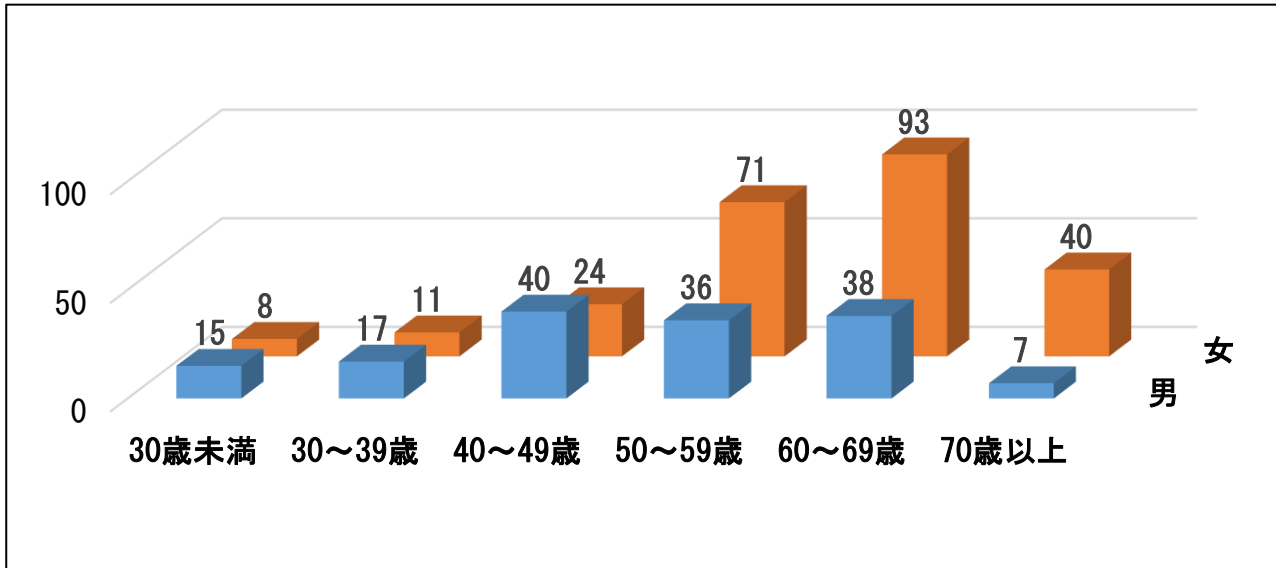
(1) 行動災害の増加 (転倒災害)

転倒災害による傷病は「骨折」が最も多く 257 人と全体の 64% を占める状況 (Fig. 3)。高年齢になるほど労働災害が多く発生し、特に女性の高年齢労働者に多発している。60 歳以上の男性 (45 人) の場合は、30 歳未満労働者 (15 人) の 3 倍に対し、60 歳以上の女性 (133 人) は 30 歳未満労働者 (8 人) の 17 倍 (Fig. 4)。

(Fig. 3) 転倒災害 傷病別・性別 死傷災害発生状況 (令和 4 年)



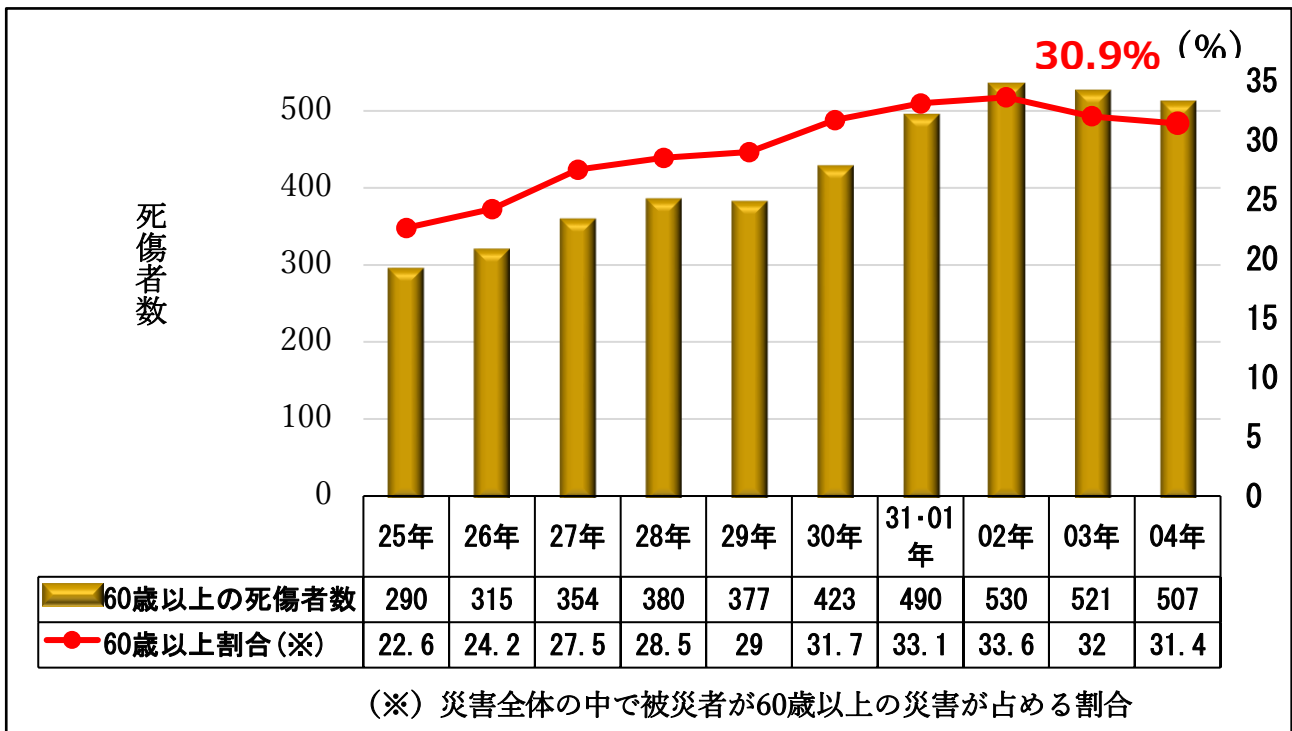
(Fig. 4) 転倒災害 年齢別 死傷災害発生状況 (令和 4 年)



(2) 高年齢労働者の労働災害の増加

- 死傷災害全体の中で高年齢労働者（60歳以上）の死傷災害が占める割合について分析したところ、平成30年以降、全死傷者数の3割を超え、高止まりが続いている。（Fig. 5）。
- 令和4年に発生した高年齢労働者による死傷災害507人について、事故の型別に分類したところ、転倒が最も多く全体の35%を占める状況（Fig. 4）。

(Fig. 5) 高年齢労働者(60歳以上)による災害発生件数と災害発生割合の推移



(Fig. 6) 高年齢労働者(60歳以上)「事故の型別」死傷災害発生状況(令和4年)

